

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 86

～県境を越えた友情の水～

香川県 直島町長

はまだ たかお
濱田 孝夫



直島町は、高松市の北方13km、岡山県玉野市の南方3kmの備讃瀬戸最狭部に位置する大小27の島々からなる群島で、保元の乱に敗れ讃岐配流の途中立ち寄られた崇徳上皇が、島民の純真素朴さを賞して「直島」と名付けられたと言い伝えられています。

直島は、大正7年に誘致された三菱マテリアル(株)直島製錬所を筆頭に、関連企業約10社によって支えられ、住民の約70%以上はこれら企業の従業員とその家族という企業城下町です。ここ最近では「アートの島」「環境の島」として国内外から脚光を浴びており、「瀬戸内海に直島あり」と言われるような魅力あるまちづくりに努力しています。

「県境を越えた友情の水～玉野直島海底導水管」

昭和42年、西日本一帯を襲った大干ばつにより、それまで飲料水と工業用水をまかなうための直島唯一の水がめであった直島ダムが底をつき始め、水不足は深刻な状況になりました。昭和43年1月、岡山県玉野市の好意で水道水を給水船でピストン輸送したこともありましたが、町をあげ

て異常渇水対策に追われていた昭和43年の3月、渇水への抜本的対策、新製錬所の直島への設置、観光開発等による水需要の増大に対処するため、玉野市側の大英断による「友情の水」を、1日最大5,000トン海底導水管により分水を受けることが決まり世紀の大事業がスタートしたのであります。

昭和44年の10月30日の落成式でバルブを開いた時に「県境を越えた友情の水」が海底の導水管をとうとうと流れ、離島の宿命ともいえる水不足の心配がこの時からほぼ消えたと言えます。今でもこの時の感動と岡山県玉野市への感謝の気持ちは忘れることがありません。

しかし、「友情の水」を送り続けてきた海底導水管も、平成18年1月に経年影響調査を実施した結果、潮流による海底の洗掘でブリッジ状態になっている海底管が確認され、現在、新たな海底導水管の敷設も視野に入れた調査を実施しているところです。離島の当町にとって「水は命」です。国土交通省・厚生労働省等国の支援についてもぜひお願いしたいと思っています。



直島の玄関宮浦港にあるアート「赤カボチャ」



玉野・直島海底導水管（玉野市側から直島を望む）



直島ダム風景（昭和41年完成）